



平成27年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【横山地区】

平成28年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 男性ボランティア横山 ゼロツウ/テン	「くつろぎ亭 横山」の運営事業	平成24年9月に開設し、本年度で4年目を迎える高齢者の立ち寄り処「くつろぎ亭 横山」事業は、高齢者の憩いの場として、介護予防、ひきこもり防止に役立っているほか、孤独死、孤立死を防ぐための高齢者相互の見守り合いの輪を広げる事に大きく貢献し、地域に不可欠なコミュニティの場となっている。	高齢者が多数参集する「くつろぎ亭 横山」を拠点として、ゼロツウ/テン会員だけでなく常連の利用者とともに地域に見守りの点づくりを行う。常連の利用者を中心としたチラシ配布、口コミ等により、さらなる新規の利用者の開拓を行うことで点から線、さらに面として高齢者相互見守り体制のネットワークづくりを目指す。	毎週木曜日に開催している高齢者の憩いの場として「くつろぎ亭 横山」の開催。 「くつろぎ亭 横山」における「健康教室」「相模原今昔物語」「脳トレーニング」「折り紙教室」さらに市社会福祉協議会と連携した「財産詐欺防止や成年後見制度」に関する高齢者向け勉強会開催。 本年度新たに、ゼロツウ/テン会員と常連利用者が協力して、新たな生き甲斐の創造、健康維持、介護予防の一層の促進を図るため、出張活動を計画している。 出張活動内容 ・特別養護老人ホーム、公民館まつり、子どもセンターなどにおける合唱披露。 ・麻雀、囲碁、将棋等の「道具」の貸出及び対戦相手としての会員等の出張。	9月15日	410,000	260,000	260,000
2 横山地区安全・安心事業推進委員会	安全・安心よこやま事業	中央区全体にいえることだが、ここ横山地区内においても自転車に関連する交通事故の件数が多い。防犯や防災についても、社会的に話題となっており継続的な啓発活動が必要である。そのため今後も横断幕やのぼり旗の掲揚等のほか、自転車交通事故を減らすための講習会等を開催することなどにより防犯、交通事故防止及び防災の啓発活動を行う必要があると思われる。	横山地区において、住民主体で災害の対応や日常生活上でふりかかる犯罪、交通事故防止の取り組みを進め、PR及び啓発活動を実施することにより、防災、防犯と交通安全に対する意識の醸成を図るとともに、安全で安心して生活できる地域づくりに貢献する。	啓発活動 ・6月、9月、12月、3月の安全・安心の日から1週間のぼり旗、横断幕を掲出し啓発強化を図る。 ・防災、防犯を啓発する新規デザインののぼり旗を作成し、地区内の公園の出入口に安全安心の日以外も掲出を行い、年間を通しての啓発活動を行う。 ・防災マップを作成し自治会加入世帯に配布を行う。 イベント ・12月20日(日)横山小学校において自転車交通安全講習会の開催。 ・3月5日(土)横山公民館まつりにおいて安全・安心よこやまの啓発ブースを出店し、防災用品の展示・PR等を行う。 青パトによるパトロールの実施 ・月に4~6回程度のパトロールの実施(年末夜間実施を含む。)	9月15日	1,090,000	1,090,000	1,090,000
3 横山地区自治会連合会	横山地区まちづくり広報発行事業	横山地区自治会連合会では、地区における防災、防犯、交通、生活環境やおまつりなどの活動、事業に取り組んでいる。一方で、未だに地区における活動が地区住民に広く浸透していき、活動や事業への参加が十分な状況ではないと思われる。横山地区における活動をより発展、充実させていくためには、広く地域住民に地区で行なわれている活動や地区のまちづくりにおける課題などを知らせていく必要がある。また、まちづくり会議においても、まちづくり会議が開催される限り、会議の結果内容を紙面で発信し続ける必要があるとの意見が出された。	横山地区自治会連合会や地区の各団体の活動に関する情報、その他まちづくりに関する情報などを広く広報することで、地域住民の方に地区の活動を周知し、活動やまちづくりに関心、興味を持ってもらう。その結果として、これまでは参加機会の少なかった人たちが地区における活動へ参加するようになり、そのことにより地域の活性化と、まちづくりの発展へと繋げることを目的とする。	【横山地区まちづくり広報の発行】 規格:A4版 4ページ 発行:1回(4,500部) 内容:まちづくり会議に関する情報、各種イベントの実施報告、各単位自治会に関する情報、地域活動団体に関する情報、防犯、防災、交通や生活環境に関する情報、住民の地域活動への参加促進につながる情報等 実施体制:横山地区自治会連合会内に編集委員会を設置。	9月15日	163,000	163,000	163,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4 とっさの時の安心づくり事業推進委員会	とっさの時の安心づくり事業	一人暮らしの高齢者が急病の時、親が働いている時間に子供が怪我をした時、親が倒れて子供が幼い時などにおいて救急車を呼んだ場合に、かかりつけ医や親族等の連絡先が分からず救急隊員が対応に苦慮したり処置が遅れたなどのケースが存在していた。そこで、かかりつけ医や緊急時の親族等の連絡先を記入する緊急時連絡表、その用紙を冷蔵庫に保管するためのケース(安心ケース)、また外出時に携帯するカード(安心カード)を作成し自治会加入全世帯を中心に配布を継続した。	一人暮らしの高齢者が急病の時、親が働いている時間に子供が怪我をした時、親が倒れて子供が幼い時などにおいて救急車を呼んだ場合に、かかりつけ医や親族等の連絡先が記入された用紙を救急隊員が見ることで迅速な対応、処置へと繋げ、地域住民の誰もが安心して日常生活を送ることのできる地域づくりを目指す。 ・開発による新規分譲住宅の入居者を対象とした自治会の説明会開催時に当事業の趣旨、配布物品等の説明もすることで自治会加入促進に繋がることを目指す。また単独の新規転入者の場合、自治会班長等が自治会加入の説明のために訪問をする際にも、当事業の説明をすることで、自治会加入の促進に繋げる。	・緊急時連絡表及び安心カードの利用への理解と活用してもらうためのチラシ、自治会掲示板用ポスター等を作成、配布する。 ・緊急時連絡表については、利用者からの毎年全部書き直すのは大変という意見を反映し、複数年度に対応できる様式に変更し、既配布世帯と新規転入者等に配布する。	1月19日	790,000	790,000	790,000
5 よこやまのこどもを応援する会	よこやまのこども応援事業	子ども会活動は、身近な地域における多様な体験、異年齢や異世代交流を通して、連帯感・協調性・責任感などの社会生活の基本を学ぶことができ、子どもの健全育成のために、大変重要な役割を果たしている。 しかし、核家族化やライフスタイルの変化もあり、子ども会や自治会など地域活動に消極的な人、単に登校班で子どもを通学させるためだけに子ども会へ加入している人も多くなってきた。子ども会活動は、身近な地域における多様な体験、異年齢や異世代交流を通して、連帯感・協調性・責任感などの社会生活の基本を学ぶことができ、子どもの健全育成のために、大変重要な役割を果たしている。	子ども会活動の重要性を保護者や子どもへ広く周知することで、地域のイベントへの積極的な参加を促進する。 (子ども)地域活動に積極的な家庭で育った子どもの場合、大人になった際も、子ども会や自治会などの地域活動への理解が得やすいため、将来の地域活動を担う人材の育成につなげる。 (保護者)子育て世代にも地域活動に興味を持ちイベントに参加してもらうことなどにより、地域活動の担い手不足や高齢化の問題解決へもつなげる。	子ども会活動の概要について、啓発チラシを作成 ・地区内の幼稚園、保育園等へ配布(子ども会加入前の世帯への普及啓発) ・自治会員全戸配布(自治会員に子ども会活動への理解を深めてもらい、地域活動等において両会のより円滑な連携を図る) ・公民館や子どもセンターなどの子ども関連施設へ配架(子ども会未加入世帯への普及啓発) 啓発チラシに公民館ホームページの情報も掲載 ・公民館ホームページへ誘導し、様々な地域活動団体等を紹介することで、地域活動の活性化へつなげる。	2月16日	249,000	249,000	249,000
						2,702,000	2,552,000	2,552,000